

事業名	防災デイキャンプ				
ジャンル	家庭教育 ・ 青少年教育 ・ 成人教育 ・ 団体育成				
日程	令和3年7月11日（日）	講師	危機管理課職員	参加費	無料
対象者	根郷小、寺崎小、山王小4・5・6年生 根郷中、南部中 全学年	参加者数 (延べ)	13人	募集方法	学校に直接募集チラシ配布
趣旨	災害時に役立つスキルを学ぶ中で、子供たちの自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育むとともに、子供たちの体験活動を通じ、災害時の共助について考える一助とする。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車による地震体験 ・根郷小学校の防災倉庫見学 ・千葉県作成の防災啓発ビデオ鑑賞 				
工夫	例年は、1泊2日の宿泊事業として開催している。しかし新型コロナウイルス感染拡大に伴い、公民館の利用制限の中、できる活動を厳選し規模を縮小して行った。また、中学生をお手伝いではなく参加者として募集した。				
成果	まずは、新型コロナウイルスの感染の影響で規模を縮小しながら「密集を避けること」、「児童・生徒同士の接触を避ける」という条件で事業を実施できたことが一つの成果である。また、参加した児童・生徒が普段経験できない起震車による地震体験や身近な学校内にある防災倉庫の見学により災害時に役立つスキルを学ぶ中で、子供たちの防災意識の向上が見られた。				
課題	今回は規模を縮小して実施したが、事業の趣旨にもある「共助」について学ぶには、どうしても人と人との対話や接触が必要になってくる。今後Withコロナを見据え、どのように事業を展開していくかが課題となる。				

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館が行う必要があるか。 ・市民や利用者のニーズに合っているか。 ・目的や役割が薄れていないか。 ・事業の休止・廃止した場合の影響は大きいのか。
優先性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の優先度は高いか。
公平性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者に情報は流れているか。 ・受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待通りの成果が得られているか。 ・さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 ・市民の満足度は高いか。
効率性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性はどうか。 ・事業運営に学習者が参画しているか。 ・他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	<p>A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。</p> <p>C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。</p>
特記	<p>現在公民館の利用制限がある中では難しいが、今後参加者が能動的に学習するプログラム（避難所ゲーム）や魅力ある活動内容（非常食調理など）の提供が課題である。</p>	

《凡例》 良い ← A B C D → 良くない	《判定例》 <table style="display: inline-table; border: none;"> <tr> <td>A } [A]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [A or B]</td> </tr> <tr> <td>A } [A]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> </tr> <tr> <td>A } [A]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> <td>A } [A]</td> <td>A } [B]</td> </tr> </table>	A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [A or B]	A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [B]
A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [A or B]												
A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [B]												
A } [A]	A } [A]	A } [B]	A } [A]	A } [B]												

次年度展望	①：事業拡大 ②：現状規模で継続 ③：事業縮小 ④：目的達成により終了 ⑤：統合・改善・その他
-------	---

防災デイキャンプ

令和3年7月11日(日)



根郷公民館

実施概要

趣 旨	災害時に役立つスキルを学ぶ中で、子供たちの自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育むとともに、子供たちの体験活動を通じ、災害時の共助について考える一助とする。
対 象	根郷小学校・寺崎小学校・山王小学校 4・5・6年生 根郷中学校・南部中学校 全学年
定 員	小学生15名・中学生6名 計21名
日 時	令和3年7月11日(日) 午前9時～11時30分
募集方法	根郷地区小中学校全児童・生徒に申込書配布
参加実績	小学生12名 中学生1名 計13名

■ ねらい

佐倉市でも近年、台風や大雨による大きな被害が出ています。また、「マグニチュード7程度の首都直下型地震が今後30年以内に70%の割合で発生する可能性がある」(国土交通白書2020)との予測もある中、様々な体験を通し、児童・生徒の防災意識の向上を図っていくことをねらいとしています。



令和元年の台風で越水する鹿島川

■ 例年の防災デイキャンプ

- ◎ 一泊二日の宿泊を伴う事業。
- ◎ 児童・生徒が食事準備に関わるなど生活体験を取り入れている。
- ◎ ボランティアや市民団体の協力を得て地域ぐるみで開催する。
- ◎ これまでに実施したプログラム
 - ▶ 救命救急講座
 - ▶ 非常時の食事作り
 - ▶ 起震車体験
 - ▶ 避難所運営ゲーム
 - ▶ 非常時の寝床づくり
 - ▶ レクリエーション 等



①食事の準備 ②「避難所運営ゲーム」を行う生徒たち(令和元年度デイキャンプより)

■ コロナ禍での事業実施に向けての検討

新型コロナウイルス感染予防対策及び教育現場との意見交換

①密を避けるための対策

- 宿泊、飲食を伴わない形での実施する。
- ボランティア等はお願いせず職員だけで実施する。

②学校側からの指摘事項

「活動に当たっては、児童・生徒同士の接触を避けたほうがよい」
との指摘があったので、それを考慮してプログラムを考える。

■ 本年度の実施内容

例年より規模を縮小して実施

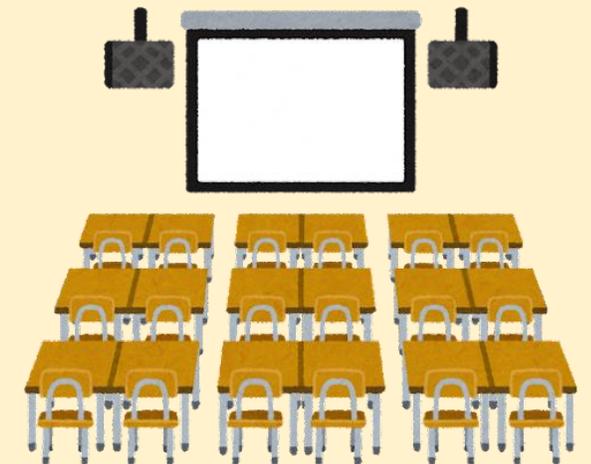
①密閉をさけ屋外で実施できるプログラム

- ◎ 起震車体験
- ◎ 防災倉庫見学

※上記2件については佐倉市危機管理課の協力を得て実施。

②会場内での密集や接触を避けるため、個々の距離を十分取って実施できるプログラム

- ◎ 防災啓発ビデオ鑑賞



起震車体験



感染予防を考え定員4名のところ、
2名一組で体験

震度7の地震を体験中

■ 地震の揺れ方は？



起震車体験からの一コマ

- **担当職員**：「東日本大震災と阪神淡路大震災の揺れの違いわかりましたか？」
- **児童**：「東日本大震災は横に揺れてたけど、阪神淡路大震災は縦に揺れていた」
- **担当職員**：「そうですね、東日本大震災の時は震源地が陸地から遠かったのが横揺れでした。阪神淡路大震災の時は震源地が真下だったので縦揺れでした。最近いわれている首都直下型地震というのは、阪神淡路大震災と同じ縦揺れになるので覚えておいてくださいね」

■ 起震車体験を今後に生かす

- 通常、自治会等が実施する防災訓練で行われる「起震車体験」は、記憶に新しい「東日本大震災」の揺れ1回のみとなっています。
- 今回は、「東日本大震災」と「阪神淡路大震災」のタイプの違う2つの地震を体験できました。将来発生する可能性の高い「直下型地震」の揺れを比較体験できたことは、生徒・児童にとって、今後に備えて貴重な経験となりました。



防災倉庫見学



倉庫の内部を見学



機材リストなどの資料を手に担当職員の説明に耳を傾ける児童・生徒

■ 小中学校の役割が増々重要に

➤ 令和元年には台風15号(9月9日)、台風19号(10月12日)、10月25日の大雨と立て続けに大きな災害が発生し、佐倉市は災害救助法の適用を受けました。根郷地区の各小中学校にも避難所が開設されました。

学校名	避難者数
根郷小学校	85人
山王小学校	9人
寺崎小学校	97人
南部中学校	32人
根郷中学校	33人
佐倉南高校	1人
合計	257人

令和元年10月11日～10月13日



避難所設営の様子(令和2年市民防災訓練より)

■ 学校の役割を知ってもらう

防災倉庫見学からの一コマ

<担当職員から>

- 「災害時には、皆さんの学校の体育館が避難所となります。防災倉庫には、避難所運営に欠かせない物資が蓄えられています。是非覚えておいてください」
- 「先日の大雨の時も避難所が開設されました。皆さん、学校に帰ったら先生に防災倉庫の場所を聞いておいてください。また、災害の時は、荷物運びなどできることがあったら、手伝ってくださいね」



防災啓発ビデオ鑑賞



座席の距離を取って配置。入口を開放、窓も開けるなどして換気にも注意



密集を避けるため、1本の机に2人が距離を空けて着席

■ 防災意識高揚のための啓発動画

- 千葉県防災危機管理部作成の『**防災意識高揚のための啓発動画**』を鑑賞しました。
- 内容は小学生のいる家庭を舞台に、家庭でできる防災対策等について紹介しています。
- 今回はその中から4本上映しました。



①『安全に登下校するために』

②『いざというときの連絡方法』

③『自分でやろう、家具の固定』

④『東日本大震災から学ぶこと』

■ ビデオから学んだこと

①『安全に登下校するために』

ブロック塀など通学路で危険な場所を事前にチェックしておくことの重要性。通学途中に地震にあった時の対応などを学びました。

②『いざというときの連絡方法』

災害時、家族で集まる場所を確認しておくこと。「災害伝言ダイヤル」を利用し家族の安否を確認する方法などを学びました。

※「災害伝言ダイヤル」への録音の方法については、ビデオ終了後資料を交えて再度説明を行いました。



③『自分でやろう、家具の固定』

家具の転倒防止、感震ブレーカーの使用など家庭内での地震対策のポイントを学びました。

④『東日本大震災から学ぶこと』

家庭での備蓄品、避難所などについて学びました。

※ビデオ鑑賞終了後「防災ガイドブック」(危機管理課作成)を使って、「ハザードマップ」の見方、「防災カード」の活用法、「佐倉市メール配信サービス」などについても説明しました。



今回の事業で工夫した点

① 新型コロナウイルス感染予防対策

- 事業内容を精査し、密集、密閉、密接が起こらないプログラムとした。
- 屋外でのプログラムを中心にを行い。屋内では個々の距離をとるなど配置を工夫。
- 参加者全員の検温と健康チェックの実施。

② 暑さ対策

- 屋外で実施するため、各プログラムの中にこまめに休憩を入れ、水分補給を行った。



今後の課題

今回は新型コロナウイルス感染予防対策を最優先に実施しました。しかし、「事業の趣旨」にもあるように「共助」について学ぶには、どうしても人と人との協力が必要であり、対話や接触が必要になってきます。新型コロナウイルスの感染が収束しない中、今後、どのように事業を展開していくかが課題となります。